

# 一年生

ふるさとの学校のからたちの花

種田 山頭火

分け入っても

分け入っても

青い山

種田 山頭火

# 二年生

論語

吾が道 一以て之れを貫く

夫子の道は忠恕のみ

校長室の松林に桂月先生の絵の横に「一以貫」と書かれた毛利元昭公の書  
があります。この言葉は論語の一節で、「終生一貫した変わらぬ道を歩む事  
が、大切だ。一貫した道とは思いやりの心である」という意味です。本校の室  
の一つです。

# 三、四年生

枕草子

清少納言

春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく山ぎは、

すこしあかりて、

むらさきだちたる雲の

ほそくたなびきたる。

春は明けがよい。  
しだいに空が白み、  
明るくなり始めた  
山の稜線に紫が  
かつた雲が細長く  
たなびいていくとこ  
ろは、なんとも  
風情がある。

# 五、六年生

「平家物語」

祇園精舎の鐘の聲、諸行無情の響きあり、

沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。

おごれる人も久しからず、

ただ、春の世の夢のごとし。

たけき者もつひには滅びぬ、

ひとへに風の前の塵に同じ。